

〔論 文〕

# メディア・シンセシスを用いた 教材開発 (2)

—高等学校地理歴史科教材ソフト『フランス』—

金 子 邦 秀

同志社大学社会学部・教授

## 1. はじめに

本研究の目的は、社会系のメディア・シンセシス（ハイパー・メディアの統合された）教材開発を、高等学校地理歴史科または総合的な学習で使用可能な大単元の作成を通じて試みることにある。高等学校の地理歴史科が公民科とともに誕生し、高等学校において実施されることとなっているが、本研究者の、基本的なスタンスとしては、こうした社会系の教科の本来のあり方としては、その目指すところの公民的資質、そのための手だてとしての社会認識の育成のいずれにおいても、戦後社会科の基本的な性格である総合的な社会の見方・考え方を継承し発展させて行くべき使命を帯びていると考えている。その意味では、総合的な学習の登場は、「屋上屋を重ねる」感がなきにしもあらずではあるが、現実的な分化社会科をはじめ諸教科を再度総合しコア・カリキュラムとして位置づけ直し、積極的に活用して行くことが大切である。しかし、教科の分化どころか、科目分化を当然とし、それを前提とした教科の枠の中では、再度社会認識教育の中核としてこれら科目を再生する具体的な方途が示されないかぎり、現状を改善することは難しいといわざるをえない。

そこで、本研究においては、上記の、高等学校社会系教科および総合的な学習の課題に答え、なおかつ、高等学校の十分というにはほど遠い PC（パーソ

\*2009年12月11日受付、2010年1月20日掲載決定

ナル・コンピュータ) の環境などを念頭に置き、直接的な研究目的と具体的な取り組みとを以下の3点とした。

研究目的1) 内容面では、高等学校地理歴史科の応用単元または総合的な学習の中の1つのテーマとして、他国(外国)についての歴史および地理に基礎をおきながらも公民、ときには他教科の視点をも導入し、総合的な他国(外国)の歴史・地理学習の可能な総合的な学習の内容構成を行う。

具体的な取り組みとしては、高等学校用教材ソフト『フランス』を開発し、口頭発表および本論文において公開することとした。『フランス』は、シリーズの第2弾として、内容面では、ヨーロッパの中でフランス革命など世界に大きな影響を与えた歴史を持ち、社会的理想や政治理念の実現などで先駆けをなし、国際的にもアメリカなどと対等にやりあう独自路線をとり、さらには、文化、芸術、観光、農産物などを通じて日本や世界と結びついていることなどを取り上げることで、他国(外国)の世界文化遺産から生活文化まで幅広く、かつ根の深い、フランス文化の理解を通じた総合的でグローバルな視点からのフランスの学習とした。

研究目的2) 方法面では、PCを用いてOSフリーで相互に互換性のある教材を開発することで、WindowsでもMacでも、また少々古いシステムを用いている場合でも、使用可能なソフトの開発を行う。

具体的な取り組みとしては、中学校用教材ソフト『ニュージーランド』の開発は基本的にはMacにバンドルされているテキスト・エディット(Windowsのメモ帳に相当)を使用し、その閲覧(教授・学習)にはFire Fox 3.5.3.(当初はSafari 3.0.3.を使用した)が、途中から、変更した/WindowsではInternet Explorerなどに相当)を使用した。このことで、相互互換性を担保しようとした。

研究目的3) 内容面と方法面の研究目的を具体化したものとして教材ソフトを開発する。開発したソフトについては、開発技法やHTMLなどを含め、公開することで、普及をはかる。

高等学校用教材ソフト『フランス』は、中学校の教師、生徒いずれにとっても慣れ親しんでいる教科書によく似たインターフェイスをもつ。もっとも、今

回のソフトはフランスを学習するので、画面のイメージはフランス国旗の色をもとにした。ただし、表紙以外は、文字や資料を読みやすくするため、同色系の淡色を使用した。また、開発されたソフトは、基本的には、クリック1つで操作ができ、PC それ自体についての習熟はほとんど必要とされない。

## 2. 基本的な教材設計

### 2. 1. システム設計及び各ページ設計のポイント

教材設計にあたり、本研究では、開発の機器としては以下のものを用いた。

- 1) PC 本体としてカスタマイズ MacPro (MacOS 10.4.7.), シネマディスプレイ 9177 J/A 20 型を用いた。
- 2) 周辺機器として、スキャナー Epson GT-X 900, プリンター Canon ip 4300, カメラ Fujifilm FinePixV 10 を用いた。

ソフト開発にあたり、HTML 作成にはテキスト・エディット (Windows であれば、メモ帳に相当)、教材閲覧には FireFox (Windows であれば、Internet Explorer や Fire Fox などに相当) を用いた。また、バンドルされている iPhoto のほか、egword universal, Word なども使用した。

開発された教材は PC 内で完結している。教材の普及には当初 CD などのメディアに焼いて配布することを考えていたが、画像等で容量がかなり大きくなり不可能となった。そこで、提供媒体も、幸い価格が急に下がってきているメモリー・スティックに変更した。写真は基本的に筆者が撮影したものであり著作権の制約をうけない。参考あるいは引用した文献にはすべて出典を明記した。

#### 2. 1. 2. 各ページ設計

タイトル		
「調べよう・考えよう」(本文に関する発問) 〈解答とのリンク機能〉	「本文」	「写真・図表・地図・資料 (統計・年表等を含む)」 〈拡大機能〉
「目次へ 前のページへ つぎの〇〇へ」〈移動のためのボタン〉		

図 各ページの基本スタイル

各ページの基本設計は前図に模式的に示されている。

1) の「タイトル」は1~10 ページの毎ページにその内容を端的に示した標題が掲げられている。

2) の「調べよう・考えよう」は各ページとも10 前後の発問が示されている。答えは、本文に示されているものとそうでないものがある。発問をクリックすると答えが調べよう・考えよう」のウィンドウにでてくる。「戻る」をクリックすると元へ戻る。

3) の「本文」は文字通り本文であり、「タイトル」に関わる内容が簡潔に説明される。この本文は(すべてではないが)2) の「調べよう・考えよう」の答えを提供し、ヒントを与える。

4) の「写真・図表・地図・資料」は、2) の「調べよう・考えよう」の答えを提供し、ヒントを与える。また、3) の「本文」に関わる写真・図表・地図・資料を提供することで具体的なイメージや情報を提供する。また、それ自体が発問を伴って、2) の「調べよう・考えよう」と同等の役割を果たすこともある。なお、この4) の「写真・図表・地図・資料」は、PC の画面上の大きさの制約があり、ページ上に示されているのはタイトルと小アイコンである。小アイコンはそれぞれをクリックすると4) の「写真・図表・地図・資料」のウィンドウいっぱい拡大した画像が示され、読み取りを容易にするよう設計した。読み取りが終わり「戻る」をクリックすれば元の画面に戻る。

5) の「目次へ 前のページへ つぎの〇〇へ」は移動のためのボタンが配置されている。なお、「つぎの〇〇へ」をクリックすると次のページが前のページと少しずれて表示され、あたかも、教科書のページが重なっているかのような視覚効果がある。「前のページへ」も同様である。

### 2. 1. 3. 教材ソフト『フランス』の各ページの基本的なスクリプト

ここでは上記教材ソフト『フランス』の各ページの基本的なスクリプトを示しておこう。もっとも、全ページとなると、膨大になるので、任意のページとして「6. ノルマンディーの旅」を取り上げ、その主要なスクリプトを示し簡

単な解説を加えておこう。

〈本体部分〉(ここに以下の各部分がリンクされることで、各ページのインターフェイスとなっている。)

〈HTML〉

〈HEAD〉

〈TITLE〉 フランス 06 〈/TITLE〉

〈/HEAD〉

〈FRAMESET rows = "10%, 80%, 10%"〉

〈FRAME src = "frjou 06.html" name = "header" scrolling = "no"〉

〈FRAMESET cols = "30%, 40%, 30%"〉

〈FRAME src = "frsa 06.html" name = "left"〉

〈FRAME src = "frchu 06.html" name = "middle"〉

〈FRAME src = "fryu 06.html" name = "right"〉

〈/FRAMESET〉

〈FRAME src = "frge 06.html" name = "footer" scrolling = "auto"〉

〈/FRAMESET〉

〈/HTML〉

〈上の部分〉(この部分は各ページの内容を端的に示したタイトルを表示する部分である)

〈HTML〉

〈HEAD〉

〈TITLE〉 上 1 〈/TITLE〉

〈/HEAD〉

〈STYLE type = "text/css"〉

〈!--

BODY {background-color : #FFCCCC}

H 1 {background-color : #FFFFCC}

-->

</STYLE>

<BODY>

<H1> 6 ノルマンディーの旅 </H1>

</BODY>

</HTML>

<左の部分> (ここは各ページにおいて、「調べよう・考えよう」のタイトルのもと、10 前後の発問が提示され、クリックすると答えがこの左の部分に提示される。それぞれの発問には3つの選択肢があたえられている場合も多い。)  
(以下、解答は ( ) で、三択は下線で正解を示しておく。)

<HTML>

<HEAD>

<TITLE> 左 1 </TITLE>

</HEAD>

<STYLE type="text/css">

<!--

BODY {background-color : #FF 99 cc}

H 3 {background-color : #FF 99 cc}

-->

</STYLE>

<BODY>

<H3> 調べよう・<BR> 考えよう </H3>

<BR> [ノルマンディーの旅]

<BR> <A href="saq 0601.html"> ★ノルマンディーという名の由来は何ですか。</A> (9 世紀頃、北方ヴァイキングとして侵攻し、この地に住み着いたノルマン人にちなんでこう呼ばれるようになりました)

<BR> <A href="saq 0602.html"> ★ノルマンディー上陸作戦を描いた作品は何

ですか。 1『プライベート・ライアン』 2『フォレスト・ガンプ』 3『トラト  
ラトラ』〈/A〉

〈BR〉〈A href="\"saq 0603.html\"">★この地方の気候・風土の特色は何ですか。

〈/A〉(ノルマンディー地方は東部はなだらかな平野で酪農が行われ、海岸は切り立った崖が続くがその下に白砂の浜が広がり漁業もさかんです。ノルマンディー地方の農家の住居の特徴は C の強い風をさけるための防風林がある、が正解です。)

〈BR〉〈A href="\"saq 0604.html\"">★ノルマンディー地方を代表する食べ物といえば、次のどれですか。 A ブルーチーズ B ムール貝 C シードル 〈/A〉

〈BR〉〈A href="\"saq 0605.html\"">★さらに、プレ・サレと呼ばれる羊の肉がその名物に加わるといのですが、この「プレ・サレ」とはどういう意味なのでしょう。 A とても柔らかい B 潮の風味がする C 丸々と太っている 〈/A〉

〈BR〉〈A href="\"saq 0606.html\"">★世界遺産モン・サン・ミッシェルの、サン・ミッシェルとは何のことなのでしょう。〈/A〉(サン・ミッシェルとは、大天使聖ミカエルのことです。708年、アヴランシュの司教であった聖オベールは夢の中で、大天使聖ミカエルのこの地に修道院を建てよというお告げを聞いたのです。)

〈BR〉〈A href="\"saq 0607.html\"">★モン・サン・ミッシェルの建造物の特徴は何ですか。〈/A〉(966年以降数世紀にわたって建設が続けられてきたため、ロマネスク様式やフランポワイヤン・ゴシック様式など中世のさまざまな建築様式を見ることができます。)

〈BR〉〈A href="\"saq 0608.html\"">★モン・サン・ミッシェルは修道院としてのみ使われたのですか。〈/A〉(モン・サン・ミッシェルは百年戦争中英仏海峡に浮かぶ要塞として使われ、ナポレオン1世の治世には牢獄としてつかわれたのです。)

〈BR〉〈A href="\"saq 0609.html\"">★モン・サン・ミッシェルが抱える問題点は

何なのでしょう。その問題点をどうやって解決しようとしていますか。〈A〉 (近年、人工的な堤防と駐車場をつくったせいで、大量に砂が堆積し、完全な島となることがまれになった。そこで、2006年より駐車場を廃止し、砂をかきだす作業が始まったのです。)

〈BR〉 〈A href="saq 0610.html"〉 ★モン・サン・ミッシェルの名物は何ですか。

A 巨大ハム B 巨大パン C 巨大オムレツ 〈/A〉

〈/BODY〉

(例えば、以上の問いのうち、「★さらに、プレ・サレと呼ばれる羊の肉がその名物に加わるというのですが、この「プレ・サレ」とはどういう意味なのでしょうか」という問いに対する「A とても柔らかい B 潮の風味がする C 丸々と太っている」という答えのどれをクリックしても次のページ (のHTMLを除いた部分, 「「プレ・サレ」とは、B の潮の風味がする、という意味で、海水に浸かる草を食べている羊は、潮の風味がしておいしいといわれています。」がこの左の欄いっぱいに表示される。そして、画面ではその下の「元へ戻る」をクリックすれば表示は元の「調べよう・考えよう」に戻る。他のすべてが同様に設計されている。)

〈HTML〉

〈HEAD〉

〈TITLE〉 header 〈/TITLE〉

〈/HEAD〉

〈STYLE type="text/css"〉

〈!--

BODY {background-color : #99 CCFE}

H 3 {background-color : #99 FFFF}

--〉

〈/STYLE〉



<BODY>

<BR> 「プレ・サレ」とは、Bの潮の風味がする、という意味で、海水に浸かる草を食べている羊は、潮の風味がしておいしいといわれています。

<BR> <BR> <BR>

<A href="frsa 06.html"> 元へ戻る </A>

</BODY>

</HTML>

<中央部分> (ここは、普通の教科書でいえば本文に当たる箇所であり、ここでも「本文」のタイトルとともにその内容が表示される。)

<HTML>

<HEAD>

<TITLE> header </TITLE>

</HEAD>

<STYLE type="text/css">

<!--

BODY {background-color : #ffffff}

H 1 {background-color : #ffffff}

-->

</STYLE>

<BODY>

<H 1> 本文 </H 1>

<H 4> [ノルマンディーの旅]

<BR> フランス北部、イギリス海峡に面した一体をノルマンディー地方といいます。

<BR> ノルマンディーときいて思い出されるのは、ノルマンディー上陸作戦ですね。

〈BR〉この作戦は 1944 年 6 月 6 日未明 (D-Day) に決行されました。

〈BR〉ノルマンディー地方の東部はなだらかな平野で酪農が行われ、海岸は切り立った崖が続くがその下に白砂の浜が広がり漁業もさかんです。

〈BR〉ノルマンディー地方の農家の住居には特徴があります。日本でも地域によっては同じような工夫が見られます。

〈BR〉ノルマンディー地方には農業や漁業の成果として独特の食文化があります。

〈BR〉さらに、プレ・サレと呼ばれる羊の肉がその名物に加わります。

〈BR〉ノルマンディーには、世界一美しいと絶賛される世界遺産モン・サン・ミッシェルがあります。

〈BR〉モン・サン・ミッシェルの建造は 10 世紀以降数世紀にわたって行われてきました。

〈BR〉モン・サン・ミッシェルは修道院としてのみつかわれたのではなく、時代の流れに応じて、様々な用途で使用されました。

〈BR〉モン・サン・ミッシェルは、近年、人工的な堤防と駐車場をつくったせいで、大量に砂が堆積し、完全な島となることがまれになりました。そこでその問題点を克服する取り組みが行われています。

〈BR〉モン・サン・ミッシェルには名物料理があります。巡礼者のためにつくられたのがそのはじまりといわれています。

〈/H 4〉

〈/BODY〉

〈/HTML〉

〈右の部分〉(ここには、写真・図表・地図・資料などがタイトルと小アイコン(縮小した画像)で示される。写真・図表・地図・資料などのアイコンをクリックすると、この右の部分いっばいに大きな写真・図表・地図・資料などの画像が示される。)

〈HTML〉

〈HEAD〉

```
<TITLE> 右 6 </TITLE>
</HEAD>
<STYLE type = "text/css">
<!--
BODY {background-color : #33 cfff}
H 3 {background-color : #33 cfff}
-->
</STYLE>
<BODY>
<H 3> 写真・図表・<BR>
地図・資料 </H 3>
<BR> <A href = "fryu 0601.html"> ノルマンディーの地図
<IMG src = "NPN.jpg" WIDTH = 90 HIGHT = 90 alt = "地図"> </A>
<BR> <A href = "fryu 0602.html"> ノルマンディー上陸作戦
<BR> <IMG src = "DDAY.png" WIDTH = 90 HIGHT = 90 alt = "作戦"> </A>
<BR> <A href = "fryu 0603.html"> ノルマンディーの産業 </A>
<BR> <A href = "fryu 0604.html"> ノルマンディーのお酒
<IMG src = "CALVA.jpg" WIDTH = 90 HIGHT = 90 alt = "お酒"> </A>
<BR> <A href = "fryu 0605.html"> 海水のかぶる土地で飼われている羊の肉
<IMG src = "PURESA.jpg" WIDTH = 90 HIGHT = 90 alt = "プレサレ"> </A>
<BR> <A href = "fryu 06061.html"> 大天使ミカエル
<IMG src = "StMICHA.jpg" WIDTH = 90 HIGHT = 90 alt = "写真 1"> </A>
<BR> <A href = "fryu 06062.html"> 大天使ミカエル 2
<IMG src = "StMICHA 2.jpg" WIDTH = 90 HIGHT = 90 alt = "写真 2"> </A>
<BR> <A href = "fryu 0607.html"> 世界遺産モン・サン・ミッシェルの全景
<IMG src = "MSM 01.jpg" WIDTH = 90 HIGHT = 90 alt = "全景 1"> </A>
<BR> 世界遺産モン・サン・ミッシェル (説明)
<BR> <A href = "fryu 0608.html">
```

```
<IMG src="MSM 02.jpg" WIDTH=90 HIGHT=90 alt="全景 2"> </A>
<BR>
<BR> <A href="fryu 0609.html"> モン・サン・ミッシェルの庭園ラ・メル
ヴェイユ
<BR> <IMG src="MSMTEIEN.jpg" WIDTH=90 HIGHT=90 alt="庭園">
</A> <BR>
<BR> <A href="fryu 06101.html"> モン・サン・ミッシェルの内部の人力
滑車
<BR> <IMG src="KIGURUMA.jpg" WIDTH=90 HIGHT=90 alt="滑
車"> </A>
<BR> <A href="fryu 06102.html"> モン・サン・ミッシェルの荷物引き上
げ用鎖
<BR> <IMG src="KUSARI.jpg" WIDTH=90 HIGHT=90 alt="鎖"> </A>
<BR>
<BR> <A href="fryu 0611.html"> モン・サン・ミッシェルへの道路と砂州
の写真
<BR> <IMG src="SASU.jpg" WIDTH=90 HIGHT=90 alt="砂州"> </A>
<BR>
<BR> <A href="fryu 0612.html"> 巨大オムレツ
<BR> <IMG src="OMLET.jpg" WIDTH=90 HIGHT=90 alt="食品">
</A>
</BODY> </HTML>
<下の部分> (「目次へ」戻ったり, 「前のページ」に戻ったり, 「つぎの7 [サ
ン・マロの旅」のページ」へ進んだり, といった, ページ間の移動に使用され
る部分である。)
<HTML>
<HEAD>
<TITLE> 6 ページ下 </TITLE>
```

```
</HEAD>
  <STYLE type="text/css">
  <!--
  BODY {background-color : #FFFFFF}
  H 4 {background-color : #FFCCCC}
  -->
</STYLE>

<BODY> <PRE> <H 4> <A href="fr 00.html" target="_blank"> 目次へ </A>
  <A href="fr 05.html"> まえのページへ </A>   <A href="fr 07.html" target
  ="_blank"> つぎの 7 [サン・マロの旅] のページ </A> </H 4> </PRE>
</BODY>
</HTML>
```

以上のような結果、この教材ソフト『フランス』本体は、全体として約 400 のパーツ（部品）から構成されている。（なお、これとは別に資料（素材）編は約 240 パーツ（部品）から構成されている。）

## 2. 2. データ設計のポイント

### 2. 2. 1. 全体的なデータ設計

この教材ソフト『フランス』は、全体として、1) 高等学校地理歴史科の学習のまとめとして主題学習的に使用する、2) 高等学校の総合的な学習の時間の一部として使用する、さらには、3) 高等学校地理歴史科を一通り学んだか、現に学びつつある生徒の中で発展的な学習を希望する生徒に自学自習、または調べ学習の課題のひとつとして提供する、といったさまざまな位置付けが可能である。

この教材ソフト『フランス』は、また、同種の教材を自作しようとする教師にとっては、総合性に配慮されているので、全体を参考に他の国または地域について類似した教材を PC に基づき、あるいは、PC に基づかないで作成する

実例を提供する。また、使用している教科書が、総合性のない部分強調型の場合、何をどう補ったらよいかのヒントがえられるものとなっている。

また、教材ソフト『フランス』は、別の論文で論じた、学習指導案『フランス』（『フランス・バーチャル・トリップ X 日間』）と完全に対応している。この教材を元にはほぼそれに即した授業展開が可能である。もちろん、教材ソフト『フランス』を部分的に利用して行う授業、教材ソフト『フランス』をさらに発展・拡大した授業など、可能性は開かれている。

### 2. 2. 2. 各ページの教材設計

この教材ソフト『フランス』では、白色を背景にした「本文」は学習内容を概観し概括し、基本的な事実的知識や用語を提供する。赤色を背景にした「調べよう・考えよう」は「本文」の内容にほぼ対応した発問群を提供することで、本文の内容を確認したり、本文にない内容を付加したり、内容の拡大と深化を通じて事実的知識に加え、一般化や法則など概念的知識へと高めていくものとなっている。青色を背景にした「写真・図表」は、本文や発問、さらには答えやその説明について具体的なイメージや理解を与える。同じ欄の「地図・資料」は、本文や発問、さらには答えやその説明について空間的・時間的な位置付けを与える。「写真・図表・地図・資料」は、各種のデータの読み取りと内容との関連付けとから、一般化や概念さらには法則に対して裏付け（根拠）を提供するようになっている。

## 3. 具体的な教材設計

### 3. 1. 『フランス』の基本的な構想

1) 第1に、教材ソフト『フランス』の学習は、地理歴史科の学習内容を基本としながらも、あえて世界史と地理に限定せず、公民科の学習内容内容をも加えた。これら3つの領域の間のバランスをとることで、日本の生徒たちには他国（外国）についての多面的、多角的な理解をはかった。基本は地理（空間）

的な認識や歴史(時間)的な認識であるが、あわせて公民(普遍)的な認識を生徒たちに獲得させるものとして構想した。

2) 第2に、『フランス』の学習は、一見、ローカルな一国の問題や課題を取り上げているように見えるが、フランスの問題や課題は歴史、地理、政治、経済、社会、文化などいずれを視点として取り上げようとしても、それらはグローバルな問題や課題と相互に関連し、相互に依存しており不可分なものとしてあるのだという、グローバルな見方・考え方を生徒たちに獲得させるものとして構想した。

3) 第3に、他国(外国)であるフランスとそこに生きる人々と、自国である日本とそこに生きる人々とは、差異をもっているが同時に共通点や類似性ももっていることを生徒たちに発見させようとしている。このため、パイロット的な研究でとられていた領域別かつ網羅的な構成をとらないことにした。すなわち、これを使って教授する教師ないしは学習する生徒が、日本からのツアー客になったように、一定のルートに沿って、フランスの主要な世界文化遺産や生活文化遺産を巡るようにして学習することで、PCの中でフランス旅行を疑似体験できるもの、すなわち、『フランス・バーチャル・トリップ X 日間』という疑似体験型ソフトを開発することにした。

4) 第4に、3)でもふれたように、内容的にはフランスの世界遺産から生活文化の学習が中心となる。その意図は、保護・保全すべき文化や遺産は、決して世界遺産だけではなく、生活にかかわる文化や遺産もあること、そして世界遺産から生活遺産まで文化遺産や自然遺産としてさらには危機遺産として、フランスにとどまらず、どの国や地域にも存在していることに生徒たちの目を開かせようとした。

### 3.2. 『フランス』のねらい

『フランス』のねらいは大きくわけて内容面と方法面とに分けられる。

内容面のねらいは、以下の2点である。

1) 社会科本来の総合的性格をもった教材開発を行うことである。そのこと

は、すでに小・高で始まっている社会科の廃止につながる解体・分化の動向に警鐘を鳴らし、総合性をもった社会科の内容とその枠組みの提示、内容への分析的なアプローチ能力の獲得がいかにして可能であるかを示すことでもある。

2) 高等学校の地理歴史科また総合的な学習のレベルにあった、グローバルな問題や課題を考える機会を与えることである。グローバル教育はかつてから取り組まれてきた国際理解教育をその中に包括するものである。だからといって、いきなりグローバルな認識が育成できるものとはいえない。そこで、グローバルな認識につながる国際理解の場として、他国(外国)の歴史や地理とそれに基礎をおく社会や文化の理解からスタートしてグローバルな認識のゴールを目指すことはできないかと考えた。それは、他国(外国)が一国だけで成り立っているのではなく、当該国にとっての(日本を含むこともありうる)他国(外国)との結び付きにおいて成り立っていることを認識させることである。

方法面のねらいは、以下の2点である。

1) OSを問わない教材ソフトを開発することである。OSとしては、代表的なものとしてWindows(Win)とMacintosh(Mac)がある。主流はWin OSであるが、教材開発上、Macは操作性その他で扱いやすい。このため、過去の先行研究においても開発はMacで行い、その上で動作確認をWin上でも行い、そのことによって開発された教材ソフトの汎用性を担保する根拠としてきた。今回の教材開発も基本的にはこの延長上にある。しかし、OS自体がどんどん変化し、同時に対応したソフトも変化している。この点では、教材ソフトはいったん開発されたらそれで終わりということにはならず、たえず更新をもとめられる宿命を負っているともいえよう。そこで、教材のハード面、ソフト面両面を睨み合わせて、当該時点でOSフリーな教材を開発することが不可欠なのである。

2) モデル的な教材ソフトを開発することである。モデル的な教材ソフトというとき大きく2つのねらいがこめられている。1つには、開発された教材ソフトはそれ自体として過不足なく教材として使用可能なものが求められるということである。現場の教師にとってとにかく1度使ってみようという意欲につな



がる魅力のある教材を開発することが不可欠である。また、教師もさることながら、小・中・高校と主たる教材である教科書に慣れ親しんできた生徒にとって、違和感をもたないインターフェイスをもっていることも必要なことである。そして、一般的な授業において使用可能であるためには、年間計画にそのまま組み込める教材を開発することが求められる。2つには、意欲ある現場の教師にとって、既成の教材ソフトをそれぞれの指導にうまく活用することに加えて、各自がそれぞれの学校や生徒の実情に配慮した教材ソフトを開発したいという意欲を抱くのは当然のことであろう。しかし、そこに立ちはだかる問題はといえば、市販の教材ソフトの場合、完成度が高すぎてとてもそれを自作できないし、開発に費やす時間も経費も見出せないのが現状である。そこで、本研究の教材ソフト開発では、主要な（そのまま使える）スクリプトも開示すること、研究に協力してくれる教師に教材ソフトを提供し追試や改善・改良のための協力を求めることも考えている。

#### 4. 教材ソフト『フランス』の具体的な教材内容設計

##### (1) 教材ソフト『フランス』の基本的な構想

『フランス』の教授学習においては、それが「バーチャル・トリップ」であるところに、教材内容構成の基本的な性格が現れている。教授学習の過程そのものが、10日間の旅程として示されていることである。この教授学習案を用いる教師と生徒は、あたかもフランスの国内を旅行しているかのように、行程を追いながら、そこでであろうことがらを学習するよう設計がなされている。

『フランス』の教授学習においては、『ニュージーランド』で示したような社会系教科の総合性を悉皆的にいかすことはしないことにした。そのかわりに、「バーチャル・トリップ」の途上で、その場所にまつわる出来事、またその場所に関わりの深い人物や事件、世界文化遺産、生活文化遺産、近代化遺産、あるいは大衆文化遺産などについて、その場にしばし立ち止まって学習させるものとなっている。

『フランス』の教授学習においては、取り分け、世界文化遺産の学習において、その背景となる風土的(地理的)条件、民族的(歴史的)条件、さらには今日的な課題(環境問題や保護保全問題およびその他の諸問題)である政治・経済・社会的(個別的/普遍的)条件などを考えさせるものとして教材内容設計を行う。

## (2) 教材ソフト『フランス』のねらい

『フランス』のねらいは、大きく分けて、内容面と方法面とに分けられる。

内容面のねらいは以下の二点である。

個々の教材ソフトの場面では、フランスの特定の地域社会の歴史や文化しか学習しないように見え(その意味では、日本の社会系教科ではこれまでとられてこなかった内容構成になっているが)、トリップ(旅行)=教材ソフトの一通りの学習を終えると、フランスの歴史については主な時代の文化遺産とそれに関連した事件や人物について、フランスの地理については大きな地域区分上の(すべてではないが)主要な地域(地方)について、また、フランスの現在の政治/経済/社会について(最小限度の)知識・理解が獲得できることがねらいとされている。

世界遺産にも、文化遺産と自然遺産そして複合遺産の3つがあること、文化遺産の中には人類の過ちを繰り返さぬよう後世に伝える趣旨の遺産があること、また様々な理由で保全・保護が求められている危機遺産があること、世界遺産に登録されるのを待っている暫定遺産があることについて理解させる。

上記1の世界遺産だけでなく、2 国宝・重要文化財、3 伝統的建物保存地区、4 遺跡、5 近代化遺産、6 伝統芸能・方言、7 大衆文化などについて次代に引き継いでいくために、わたしたちができることにはどんなことがあるかを理解し、どのような行動をとることがのぞましいか考えさせる。

上記のねらいを達成するため、2つの作業的な課題が用意されている。1つめは、各ミニ・トリップのあとで、そのミニ・トリップに関連した文献や資料が提示され、いくつかの学習事項を再確認したり、各ミニ・トリップで学んだ

ことを総括したり、その学習事項を他の視点から見直すことが作業として課される。2つめは、総まとめを行うための作業が用意されていることである。すなわち、主要事項一覧を用意し、それをプリント・アウトし、空所補充などの作業を通し学習内容の体系化と定着がねらいとされている。すなわち、バーチャル・トリップでは現実の旅行がそうであるように、たとえば、対象を時系列に位置付けてみたり、フランス全土の空間に位置付けてみることはしない。そこで、そうまとめの課題では、基本的には、このバーチャル・トリップで学んだ事項をマトリックス的に整理させる。

方法面のねらいは以下の点である。

PC上のソフトの本文および資料をもとに、各ページに設けられた設問に対して、資料などをもとに推論を行い、自ら答えを導くことができるようになる。また、それ自体がヒントともなる三択式の設問に対して予想を行い、資料にあたりながら、自ら答えを導くことができるようになる。

ひと通りの学習を行った後で、求められるレポートの作成を通じて、各自の選択したテーマに付いてより広汎かつ深化した見方／考え方を表現できるようになる。このため、提供された資料に加えて、インターネット上の情報に加え、図書館・資料館・博物館などで資料収集し、それらを分析し、検討し、総合したレポートを作成できるようになる。

## 5. 高等学校社会系総合ソフト『フランス』

高等学校社会系総合ソフト『フランス』は、目次とまとめを除くとそれぞれがホームページ的な全10ページからなっている。

教材ソフト『フランス』(バーチャル・トリップ X 日間)

### (2) 教材ソフトの目標

フランスについて、「バーチャル・トリップ X 日間」を活用した学習を通じて、以下の点についての目標を達成する。

[態度・意欲に関する目標] この授業および教材ソフトで喚起された興味・関心をもとにインターネットを用いて検索し、図書館などでフランスについて調べるようになる。旅行のガイドブック、新聞の広告あるいは旅行代理店のパンフレットなどを参考に、各自で「私の（グループで計画させる場合には、私たちの、となる）フランス・バーチャル・トリップ X 日間」と名付けた模擬海外旅行を計画できるようになる。

[方法・技能に関する目標] 紙媒体または PC 画像ソフトとして提供される、フランスについての発問（PC ソフトおよび学習指導案では「調べよう・考えよう」をもとに、「本文」「写真・図表・地図・資料」からの事実やデータの読み取り、また発問にたいする予想（仮説）をたてることができる。

[知識・理解に関する目標] 紙媒体または PC 画像ソフトを活用して、フランスについての事実的な知識や理解を獲得し（学習指導案の応答／説明／作業）、それらに関連した社会系の概念や用語（学習指導案の概念）を獲得する。また、（世界遺産から大衆文化遺産までの）文化遺産に関する一般化や概念化を行うことができる（学習指導案の到達目標）。

教材ソフトの全体構成（本文は 1～10 の全 10 ページ〈10 画面〉）

0. もくじ+授業の進め方（PC の基本的な操作の仕方）

1. フランスことはじめ
2. 日本出発からフランス到着まで
3. フランス地中海の旅
4. プロヴァンスの旅
5. ロワールの旅
6. ノルマンディーの旅
7. サン・マロの旅
8. イル・ド・フランスの旅
9. パリの旅
10. 世界遺産から生活文化遺産まで
11. まとめ

図 0～図 11 (略)

## 6. 各ページについての考察

### 6. 0. 「もくじ+授業の進め方 (PC の基本的な操作の仕方)」のページ

このページは、「もくじ」がしめされ、各項目をクリックすれば、直接それぞれのページに進むことができる。また、この教材は、「この教材は、クリック 1 つですすめられます。さあどうぞ。」と、簡潔に述べられている。

### 6. 1. フランスことはじめ

[フランスことはじめ] では、「おめでとうございます。あなたは当社のヴァーチャル旅行「フランスの世界遺産や生活文化を見て回ろう 10 日間」に当選しました。あなたはすぐに旅行手続きを開始しますか。フランスの文化遺産や生活文化を見て回る前に、フランスについて簡単に学んでおきましょう。」という導入が行われる。フランスについての概観を与えるため、「本文」では、これに続けて、

「フランスの地図をみてください。フランスはよく「ヘキサゴン」とよばれますが、それはその国土(本土)の形からつけられた名称です。フランスはイギリスとの間を海峡で、また、スペインやイタリアとの間を山脈でへだてられています。

フランスは全体的には平坦な地形をした国土をもっています。しかし、国境には高い山があり、平野には大きな河川があります。フランスは日本と比べ高緯度に国土がありますが、比較的温暖です。

フランスの国境は戦争の度ごとに変わってきました。とくにどこがそうだったのでしょうか。ドイツとの国境のあたりに注目して下さい。

フランスは大統領が国家元首の国です。こうした形態をとる以前は王政とよばれ、王様が元首の国でした。その王政を廃し、現在の国家体制の基礎をつけたのが、有名なフランス革命です。フランス革命は、自由、平等、博愛など

をかかげた運動でした。

フランスには数多くの世界遺産があります。また、各地方の風土が生み出した生活遺産とでもよべるものがあり、それが、フランスの各地方の特色となっています。」

そして、[フランスことはじめ]の「調べよう・考えよう」では[フランスの特色は何だろうか。]が、以下の発問を通じて探られる。「★フランスはどこにありますか。首都は。(フランスはヨーロッパ大陸にあります。フランスの首都はパリです。)★フランスは大まかにとらえると、その本土は、どんな形をしていますか。(六角形をしています。そこで「ヘキサゴン(六角形)」とそのものズバリの別称がよく使われます。)★フランスは大まかにとらえると、その本土は、どんな地形がありますか。(フランスには、1)ピレネー山脈2)中央高地3)アルプス山脈4)パリ盆地5)ロワール河6)セーヌ河などの山や河があります)★フランス本土の北はどうなっていますか。(ドーバー海峡です。現在イギリスとフランスはドーバー海峡の下を通る地下鉄道で結ばれています。)★フランスの気候はどうなっていますか。(フランス本土は緯度のわりには暖流の影響で温暖である。)★かつて戦争の度ごとにその帰属が変わったのはどこですか。その相手国は。(アルザス・ロレーヌ地方である。相手国はドイツです。)★アンチル諸島はどこですか。ギアナはどこですか。ニューカレドニアはどこですか。(アンチル諸島はカリブ海、ギアナは南アメリカ、ニューカレドニアはパプア・ニューギニアにそれぞれあります。)★フランスはどんな政治形態をとっていますか。(共和制です。現在は第5共和制です。)★フランスを象徴する3つのシンボルとは何ですか。(フランスを象徴する3つのシンボルとは三色旗(国旗)、ラ・マルセイーズ(国歌)、マリアンヌ(女性)です。)★フランスには世界遺産がいくつぐらいあると思いますか。(フランスには世界遺産が31あります。)★フランスの特色、あなたの印象に残ったことを100字でまとめましょう。([フランスの特色]1ヨーロッパにおける位置は——。2地形や気候の特色は——。3フランスの政治の特色は——。)

「フランスことはじめ」では、以上のような、「本文」および「調べよう・考えよう」に対応したフランスの領土についての「写真・図表・地図・資料」である。フランス本土と周辺の世界地図、フランス本土の白地図、フランス本土の地形図、パリ／ニースと東京の雨温表、フランスの海外領土 [一覧表]、共和国の略史 [年表]、三色旗 (国旗)、ラ・マルセイエーズ (国歌)、マリアンヌ (女性) [絵画] が提示される。

## 6.2. 日本出発からフランス到着まで

「本文」[2 日本出発からフランス到着まで] の本文は以下の通りであり、ハブ空港のひとつである隣国オランダのアムステルダム、共通の通貨ユーロについて学習させるのがねらいである。

「日本から北回りでフランスに向かうことになりました。航空会社は KLM (オランダ航空) です。飛行機の中のモニターにはこの飛行機の飛行している位置が地図上に示されています。今回の旅行では航空運賃に加えてサーチャージというお金がかなりかかりました。

あなたが乗った飛行機はフランスではなく、オランダのアムステルダム行きで、そこでフランス行きの KLM に乗り換えました。アムステルダムの空港では、厳しいボディ・チェックを含む入国検査がありました。しかし、つぎの最終目的地フランスの空港ではそうしたことはほとんどありませんでした。

フランス行きの飛行機に乗り換えると、日本からの飛行機のそれとはことなることがあり、ああ外国へきたのだなと感じることがあります。周りの景色、同乗のお客たち、すべてが日本とは異なった雰囲気です。

空港で両替をしました。同額のコインには実にいろいろな種類があります。大きさも日本のものとは異なるし、慣れるまでしばらくたいへんそうです。」

「調べよう・考えよう」では「日本とフランスはどのように航空路で結ばれているのか。」をテーマに航空路について考えさせる発問がなされる。「★関空を飛び立った飛行機はフランスへの中継地アムステルダムをめざす飛行でどんな航路をとるのだろうか。(日本海へ出てサハリンの西あたりを北上し北

極圏を目指して飛行します。) ★どうしてそんな航路になるのだろうか。(飛行機は大圏ルートをとるからです。飛行可能な国の上空であれば、できるだけこの大圏ルートに沿うことが所要時間を短縮することになるのです。) ★今回の旅行では航空運賃に加えてサーチャージというお金がかなりかかりました。これはいったいなんなのですか。(原油価格の高騰のため、航空燃料も値上がりし、その分を、顧客が負担しなくてはならなくなったのです。その上乗せ運賃をサーチャージといいます。) ★あなたが乗った飛行機はアムステルダム行きで、そこでフランス行きの KLM に乗り換えました。アムステルダムのような空港を何といいますか。(アムステルダムのように、国外と国内ばかりでなく、国外と国外を結ぶ機能を併せもっている空港をハブ空港とよびます。) ★アムステルダムの空港では、厳しいボディ・チェックを含む入国検査がありました。しかし、つぎの最終目的地フランスの空港ではそうしたことはほとんどありませんでした。なぜでしょうか。(UE (EU) では、その加盟国の国民は相互にパスポート不要になっており、UE 以外の国の人々は、UE のどこかの国で入国審査をうければよく、出国は入国した国でなくてもかまわないからです。いったん UE に入国すればあとは、国内旅行と同様に移動できるのです。) ★フランス行きの飛行機に乗り換えると、日本からの飛行機のそれとはことなることがあり、ああ外国へきたのだなと感ずることがあります。それは何ですか。(機内放送に日本語がなくなり、オランダ語、フランス語、英語になりました。) ★空港で両替をしました。フランスの通貨は何ですか。また、同額のコインには実にいろいろな種類があります。どうしてなのでしょう。(ユーロです。UE (EU) では、加盟国の多くが共通の貨幣であるユーロを採用しています。したがって、多くの国の間では、両替をする必要がなくなりました。硬貨は各国が作っていますがこれも相互交換性をもっています。あなたが手にするのはいったいどこの国のコインでしょう。)

ここでは「写真・図表・地図・資料」として、東京中心正距方位図、大圏航路説明、旅行社のパンフレットの記事、オランダ航空の旅客機、UE (EU) 加盟国、ユーロの紙幣／貨幣、が提示される。



### 6.3. フランス地中海の旅

「本文」では〔フランス地中海の旅 A〕で、フランスの隣国モナコのことですが、また〔フランス地中海の旅 B〕では、コート・ダ・ジュールとよばれヨーロッパ有数の避寒地であるニースのことが学習される。

〔フランス地中海の旅 A〕 フランスのこの地方が接しているのは地中海です。大西洋などとくらべて穏やかな地中海は、貿易や旅行のための航路としてやくだってきました。

地図でフランスの地中海地方の位置を確認しておきましょう。フランスの地中海地方はその対岸がアフリカ大陸です。南東にはイタリア、南西にはスペインとポルトガルが位置しています。

この地方には、フランスの一地方のような小さな国モナコ公国があります。地図上で見つけて下さい。モナコには高級ホテルが建てられ、ヨーロッパの富層が集まってくることも高級リゾート地として発展してきました。

またモナコでは毎年5月に行われるイベントがあり、世界中から観光客を集めるのに貢献しています。

モナコの宮殿では、衛兵の交替がみられます。また、モナコの町を一望することができます。かつて、モナコ公国の王妃に有名な女優がなって、話題となったこともあります。

〔フランス地中海の旅 B〕 ニースにやってきました。このあたりは、コート・ダ・ジュールとよばれヨーロッパ有数の避寒地となっています。ニースには毎年たくさんの人々が訪れます。

ニース観光をしていて、お昼時になりました。昼食には何を食べてみましょうか。この辺りの郷土料理にしましょう。ニースを観光しているとお土産屋さんがありました。そこではフランス北部にはいない動物の形をかたどった壁掛けがたくさん売られています。

ニースの西にはカンヌがあります。今回は訪れませんでした。カンヌといえば有名な催しがあります。」となっている。

「調べよう・考えよう」では〔フランスの地中海岸はどんなところだろう 1〕

[フランスの地中海岸はどんなところだろう 2] の二つのまとまりを持った問いかけが先の内容に対応して考察される。

[フランスの地中海岸はどんなところだろう 1] 「 ★フランスの地中海岸の周りにはどんな大陸や国がありますか。(フランスの地中海地方はその対岸がアフリカ大陸です。南東にはイタリア、南西にはスペインとポルトガルが位置しています。) ★モナコ公国の広さや人口はどれくらいだろうか。 A 面積 195 平方キロメートル 人口約 3,700,000 人 B 面積 19.5 平方キロメートル 人口約 370,000 人 C 面積 1.95 平方キロメートル 人口約 37,000 人 ★この国の経済に貢献していることといえば、次のどれでしょうか。 A 銀行業 B カジノ (賭博場) C 巡礼者 ★モナコで人気の高いイベントといえば、次のどれでしょうか。 A 闘牛 B F1 レース C ゴルフ ★モナコ公国の「公国」とは何でしょうか。 A 公民 (国民) が治める国 B その国を治める君主 (王) が公爵である国 C 公務員が治める国 ★ところで、モナコ公国の宮殿ですが、その周りに積んで去る、黒いボーリングの玉のようなものは何ですか。 A 貴族の遊び道具 B 船の釣り合いをとるための重り C 大砲の弾 ★かつて、このモナコの王妃となった有名な女優とは誰だったのでしょうか。(モナコの王妃となった有名な女優とはグレース・ケリーです。)

[フランスの地中海岸はどんなところだろう 2] ★コート・ダ・ジュールとはどういう意味なのでしょう。 A 紺碧の色をした海の岸 B 防衛のための施設のある海岸 C 一日をゆっくり過ごせる海岸。 ★ニースには年間どのくらいの人々が訪れるのでしょうか。 A 8 万人 B 80 万人 C 800 万人

★ニース観光をしていて、お昼時になりました。昼食にすすめられるのはどれですか。 A ニース風パン B ニース風スープ C ニース風サラダ

★ニースのお土産屋さんで売られている、フランス北部にはいない動物の形をしたお土産品とは何でしょう。 A セミ B トンボ C チョウ ★ニースの西にはカンヌがあります。今回は訪れませんでした。カンヌといえば有名な催しがありますね。それは、何ですか。 A 音楽祭 B 映画祭 C 絵画祭」

ここで使用される「写真・図表・地図・資料」は、ヨーロッパの地図、モナコの人口、モナコのカジノ [写真]、モナコの F1 レース [写真]、公国 [説明]、モナコの王宮前 [写真]、モナコの王妃 [資料写真]、コート・ダ・ジュール [写真]、ニースの観光客 [写真]、ニースの郷土料理 [写真]、ニース土産 [資料写真]、カンヌ映画祭と日本映画 [説明]、である。

#### 6.4. プロヴァンスの旅

「本文」

[プロヴァンスの旅] ではアルルやアヴィニョンを中心にして、プロヴァンスの気候や歴史、この地で活躍した芸術家のことを学習する。「本文」は以下の通りである。

「[プロヴァンスの旅]「足下には地中海、頭上にはアルプス山脈を抱く鮮やかな色彩のパレット」(<http://jp.franceguide.com/home.html?nodeID=16>)。フランス観光局公式サイトはプロヴァンスをこう表現している。

東にアルプスの山々を望み、ローヌ河の流域に広がる地域がプロヴァンスです。プロヴァンスは、山地、盆地、湿地帯、切り立った海岸線など変化に富んだ地形をしています。プロヴァンスは穏やかな地中海性気候で、一年中温暖ですが、ただミストラルと呼ばれる季節風による急激な気温の変化があります。プロヴァンスではその気候を生かして、オリーブ、ラベンダー、ミモザなどの栽培が盛んに行われています。

プロヴァンスでは9世紀にプロヴァンス王国ができました。しかし、この地域がフランスに併合されたのは15世紀後半、平和に戻ったのは18世紀のことでした。

アルルにやってきました。アルルはいつごろから歴史に登場してくるのでしょうか。アルルにはイタリア以外に残るローマの遺跡の中で、最大級の規模のものが残されています。それが比較的破壊されずに、19世紀に復元され、さらに、世界遺産にも登録されています。ここアルルには古代の劇場跡も残されています。

アルルは中世には聖地巡礼の通過地としてにぎわいました。精密な装飾が残るサン・トロフィーム教会がここにはあります。アルルは音楽や絵画など、芸術家たちが過ごしたことで知られています。画家のゴッホはその代表的な一人です。

さて、少し移動してきました。ここには途中で途切れた橋が残されています。

この橋の近くにある街は、14世紀に起こった事件で有名です。「世界史」の教科書にも出てくる1309年から1377年に起こったこの事件では、フランス王領にある教会や修道院の治める税を巡り、フランス国王とローマ教皇とが対立しました。フランス国王の圧力のもと、ローマ教皇クレメンス5世はローマを離れ、ここに教皇庁をおきました。細く曲がった石畳の道が、同じく石造りの建物の間をぬって、中世の街はこんなであったかなと思わせます。ここは歴史地区として世界遺産に登録されています。」

「調べよう・考えよう」

[プロヴァンスの旅1] では以下の発問が用意されている。「★プロヴァンスとはどのような地域ですか。(東にアルプスの山々を望み、ローヌ河の流域に広がる地域がプロヴァンスです。プロヴァンスは、山地、盆地、湿地帯、切り立った海岸線など変化に富んだ地形をしています。) ★ミストラルと呼ばれる季節風による急激な気温の変化があるということですが、その変化は。(プロヴァンスは穏やかな地中海性気候で、一年中温暖です。季節の変わり目や冬季に吹きすさぶ風のことをミストラルといいます。ミストラルが吹くと急に気温が下降します。) ★オリーブ、ラベンダー、ミモザなどを原料につくられるものにはどんなものがあるのでしょうか。(プロヴァンスではこれらを原料にした、ハーブ製品がつくられています。また、有名なマルセイユ石けんにもこのハーブが使用されています。) ★この地域がフランスに併合されたのは15世紀後半、平和が戻ったのは18世紀のことでした。なぜなのでしょう。(プロヴァンスは、イタリアとスペインに挟まれた交通の要衝であったため、戦乱にまきこまれることも多かったのです。) ★アルルはいつごろから歴史に登場し

てくるのでしょうか。(アルルは紀元前 1 世紀頃からローマの商業都市になっていました。) ★アルルにはイタリア以外に残るローマの遺跡の中で、最大級の規模のものが残されています。それは何でしょうか。(1~2 世紀に建造された闘技場です。2 万人が収容可能でした。) ★アルルに残るローマの遺跡はなぜ破壊を免れたのでしょうか。(中世には要塞として使われたました。その後は、場内に民家が建てられていたからです。) ★アルルの劇場、それは何人ぐらい入れる施設だと思いますか。A 1000 人 B 10000 人 C 20000 人

★サン・トロフィーム教会の入口にレリーフで描かれているのは何ですか。

A 最後の審判 B ビーナスの誕生 C ノアの方舟

[プロヴァンスの旅 2] ★今からイントロを聴いてもらう曲の作者と題名は何でしょうか(ドーデの劇『アルルの女』です。) ★これらの写真に映っている風景はゴッホの作品の題名としてはそれぞれ何というように呼ばれていますか。(「はねばし」と「夜のカフェテラス」ですね。) ★かつてゴッホが入院していた病院は、いまはどうなっているのでしょうか。(エスパス・ヴァン・ゴッホとよばれ今は土産物を売る店もある観光スポットとなっています。) ★今からイントロを聴いてもらう曲の題名は何でしょうか。(曲名は『アヴィニョンの橋の上で』です。) ★橋の名前は何ですか。この橋はいつ頃架けられ、どんな由来があるのでしょうか。(サン・ベネゼ橋で、12 世紀に架けられました。羊飼いのベネゼが巨石を投じてその基礎を築いたという伝説があります。元は 22 あったアーチ橋のうち、今は 4 つのアーチ橋が残っています。) ★この曲に歌われている橋はどこにあるのでしょうか。(その橋はアヴィニョンの北西にあり、ローヌ河にかかっています。) ★この曲の歌詞からはどんなことがわかりますか。(ローヌ河のほとりに楽隊が立ち、人々はその音楽に合わせて、輪になって踊るのを楽しんでいました。これをファランドールといいます。) ★このアヴィニョンの街が特に有名になった事件が 14 世紀に起こりました。「世界史」では、何という事件として出てきましたか。また、どんなことでしたか。(14 世紀(1309~1377 年)に起こった「アヴィニョンの捕囚」です。フランス王領にある教会や修道院の治める税を巡り、フランス国王とロー

マ教皇とが対立しました。フランス国王の圧力のもと、ローマ教皇クレメンス5世はローマを離れ、ここアヴィニョンに教皇庁をおきました。) ★そのアヴィニョンの街の中はどんな感じなのですか。(細く曲がった石畳の道が、同じく石造りの建物の間をぬって、中世の街はこんなであったかなと思わせません。ここはアヴィニョン歴史地区として世界遺産に登録されています。そこを縫うような狭い一般道を走り回る列車に乗ると、よく周りにぶつからないで通過していくなあと実感できます。)」

ここで使用される「写真・図表・地図・資料」は、フランスの地図、フランスの季節風 [説明], マルセイユ石けん [写真], プロヴァンス王国 [説明], アルルの闘技場 [写真], アルルの闘技場 [写真], アルルの闘技場と古代劇場歴史 [説明], アルルの劇場 [写真], サン・トロフィーム教会 [写真], ドーデの肖像画, ゴッホの「跳ね橋」の現状 [写真] と「夜のカフェテラス」の現状 [写真], エスパス・ヴァン・ゴッホ [写真], エスパス・ヴァン・ゴッホ [写真], 『アヴィニョンの橋の上で』 [歌詞], サン・ベネゼ橋 [写真], 羊飼いのベネゼの伝承 [説明], ファランドール [画像資料], 『世界史 B』教科書からの抜粋 [文書資料], アヴィニョンの教皇庁 [写真], アヴィニョンの街の中 [写真] である。

## 6.5. ロワールの旅

「本文」

[ロワールの旅] では、フランス中部のロワールについて、そこが「フランスの庭」とよばれ、多くの城が営まれたこと、オルレアンは百年戦争のときにジャンス・ダルクが活躍した場所であることなどを学習する。「本文」は以下の通りである。

[[ロワールの旅] ロワール地方はフランス中部にあり、「フランスの庭」と呼ばれています。ここを流れるのがロワール河です。ロワール地方の気候は温和です。でも、冬の冷え込みは厳しいのです。

ロワールの地図をみると古城がたくさん点在していることがわかります。

では、そうした古城のひとつシャンボール城を訪れてみましょう。この城は16世紀に建てられ、ルネサンス風の建物です。シャンボール城の天守の中央にはこの城の目玉とでもいうべき階段があることでも有名です。つぎにシェール河に浮かぶシュノンソワ城を訪れてみましょう。この城は、15世紀の城塞様式+初期ルネサンス様式+クラシック様式と三様の建物からできています。この城は、その城主にちなんで別名をもっています。今夜はロワールの観光ならではの宿に泊まることにしました。

ロワール河の右岸にあるロワレ県の中心都市はオルレアンです。オルレアンといえば有名なのがジャンヌ・ダルクですね。彼女が活躍したのは百年戦争のさなかの15世紀のことでした。」

「調べよう・考えよう」では、以下の発問をもとにした学習が行われる。「★ロワール河、全長はどのくらいあると思いますか。 A 約10000キロメートル B 約1000キロメートル C 約100キロメートル ★ロワール地方の気候が温和なのはなぜですか。(ロワール地方の気候は、河沿いに大西洋から海風が吹き込み温和な気候をもたらししています。でも、冬の冷え込みは厳しいのです。) ★ロワール地方の地図をみて気がつくことは何ですか(ロワールの観光のポイントはロワール河にそって点在する古城です。) ★シャンボール城は16世紀に建てられ、ルネサンス風の建物です。どんな点がルネサンス風なのでしょうか。 A 人間の生活がしやすい B 左右が対称である C 明るい色で統一されている。 ★シャンボール城の階段はどんなものだと思いますか。 A 人がすれ違わないで昇降できる B 人が歩かないでも昇降できる C 各階ごとにいったん部屋の中に入る。 ★シュノンソワ城は、その城主にちなんで別名をもっています。何でしょうか。 A 六人の騎士の城 B 六人の王の城 C 六人の女の城 ★ロワールならではの宿といえば、どんな宿なのでしょう。 A お城の庭にある B お城を見渡せる山上にある C お城の中にある ★百年戦争はフランスとどことの戦争でしたか。 A イギリス B ドイツ C スペイン ★ロワールに古城が多いのはなぜですか。 A この近くに宮廷が移された。 B 交通の便がよかった。 C ハ

イレバルにあったイタリアの影響を受けた。」

ここで使用される「写真・図表・地図・資料」は、ロワールの地図、ロワールの気候 [説明文]、ロワールの古城の分布 [地図]、シャンボール城 [写真]、シャンボール上とその階段 [写真/説明文]、シュノンソワ城 [写真]、シャトーホテル [説明文]、ジャンヌダルクの肖像画、である。

#### 6. 6. ノルマンディーの旅 (2. 1. 3. を参照せよ。)

「本文」

(略)

「調べよう・考えよう」

(略)

「写真・図表・地図・資料」

(略)

#### 6. 7. サン・マロの旅

「本文」

[サン・マロの旅] では、ノルマンディー地方の西にあたる、ブルターニュ地方についての学習が行われる。ブルターニュ地方の歴史が、先史時代の巨石「メンヒル」、中世の「海の男たちの町サン・マロ」、大航海時代のジャック・カルチェ、近世の「コルセール」などについて、また、その気候や独自の食文化が学習される。「本文」は以下の通りである。

[[サン・マロの旅] ノルマンディー地方の西に位置するのがブルターニュ地方です。メキシコ湾流のおかげで緯度の割には温暖です。フランスで最も多雨ですが、日照時間も長いのです。

カキをはじめ魚介類は豊富です。シードルは「ボル」といわれるカップで飲まれています。郷土料理としてはクレープがあります。

海の男たちの町サン・マロを訪れよう。16世紀、ここから冒険家ジャック・カルチェが出航し、大きな「発見」をしました。サン・マロでは17世紀に



「コルセール」とよばれた人々が活躍をしました。サン・マロは城壁に囲まれた町です。12世紀から18世紀まで拡大されてきました。その城壁は、今では、散歩道になっています。

ブルターニュ地方はイギリスからわたってきた人々を祖先にもち、9世紀から16世紀までは公国として独立をたもっていました。また、ブルターニュ地方のカルナック周辺には先史時代の遺跡があり、「メンヒル」という直立した巨石があることで知られています。」

「調べよう・考えよう」では[サン・マロの旅]として、以下の発問をもとに学習を進めて行くようになっている。★ブルターニュ地方の日照時間はどのくらいですか。 A 1000時間 B 2000時間 C 3000時間 ★ブルターニュ地方の郷土料理としてはクレープがあります。このクレープの原料は何でしょうか。 A 栗 B 蕎麦 C とうもろこし ★海の男たちの町サン・マロを訪れよう。16世紀、ここから冒険家ジャック・カルチュエが出航して「発見」したのはどこか。 A メキシコ B カナダ C キューバ ★サン・マロで17世紀に活躍したのはどんな人々だったのでしょうか。 A 漁師 B 海賊 C 商人 ★城壁は、今では、散歩道になっています。そこから海上に見える島にあったものは何ですか。 A 灯台 B 造船所 C 要塞 ★ブルターニュ地方はイギリスからわたってきた人々を祖先にもっています。その先祖の人々とは何人とよばれていますか。 A ゲルマン人 B アイルランド人 C ケルト人 ★「メンヒル」という直立した巨石は一体何に使われたのでしょうか。(巨石が何に使われたのかまだ解明されていません)。

ここでは「写真・図表・地図・資料」として、ブルターニュの地図、ブルターニュのクレープ [写真]、サン・マロの城壁 [写真]、ブルターニュの歴史1メンヒルとドルメン (カルナック)、ブルターニュの歴史2ケルト民族 [説明文]、ブルターニュの祭り [写真] が提示される。

## 6.8. イル・ド・フランスの旅

「本文」

[イル・ド・フランスの旅] では、パリを取り巻く周辺に位置するイル・ド・フランス地方について学習します。中心は何といってもヴェルサイユ宮殿です。宮殿にかかわるルイ 14 世、ルイ 16 世、そしてマリー・アントワネットの 3 人に焦点がしばられて学習が進行します。「本文」は以下の通りです。

[[イル・ド・フランスの旅] つぎに訪問するのはイル・ド・フランス地方です。イル・ド・フランス地方はパリを取り巻く地域です。イル・ド・フランス地方は春、夏は晴天が多く過ごしやすいのですが、秋の訪れは早く、冬は降雪はほとんどありません。

イル・ド・フランス地方でみるべきところといえば、ルイ 14 世が造営させたヴェルサイユ宮殿ですね。「有史以来、最も大きく、最も豪華な宮殿を！」というルイ 14 世の一声で造営されました。ルイ 14 世は、別名をもち、その肖像画にもそれにふさわしい王の姿で描かれています。ヴェルサイユ宮殿の中で最も壮麗な空間といえば「鏡の間」です。

ヴェルサイユ宮殿には大きな庭園のほかに、プチ・トリアノンと呼ばれる一角があります。この一角は、もとはルイ 15 世とポンパドール夫人のために建てられたものですが、のちにルイ 16 世の妃マリー・アントワネットのお気に入りの館となりました。プチ・トリアノンにはイギリス式と中国式を折衷した庭園です。

フランス革命勃発。「パンをよこせ」と要求して蜂起した民衆に対し、逃亡した王の行動、そしてアントワネットがいったことばは民衆の怒りの炎に油をそそいだといわれています。」

「調べよう・考えよう」

イル・ド・フランスについて、位置と気候が確認された後、発問は、「本文」と対応して、ヴェルサイユ宮殿とそれをめぐる先述の 3 人の人物についての学習を促します。「★イル・ド・フランス地方はどのあたりのことですか。パリを取り巻く半径 A 300 キロメートル B 200 キロメートル C

100 キロメートル

★冬にみられる気象としてどんなことがありますか。 A 雷 B 底冷え  
C 蜃気楼 ★ヴェルサイユ宮殿です。「有史以来、最も大きく、最も豪華な宮殿を！」というルイ 14 世の一声で造営されました。その理由は。 A 前の王より立派な宮殿を造ることが慣例だった B 外国の立派な王宮を知った  
C 王より立派な邸宅を造った貴族がいた ★ルイ 14 世は、別名を何といた  
たでしょうか。 A 征服王 B 黄金王 C 太陽王 ★ヴェルサイユ宮  
殿の中で最も壮麗な空間といえば「鏡の間」です。では、のちに、1919 年 6  
月 28 日にこの場所で行われた歴史的出来事とは何ですか。(ヴェルサイユ条約  
の調印式がおこなわれました。) ★イギリス式と中国式の庭園の奥まったところ  
にアントワネットがつくらせたものとは何だったのででしょうか。 A 小さな  
村里 B 小さなメリーゴーランド C 小さな馬場 ★蜂起した民衆に対  
しアントワネットがいったことばとされるのは、つぎのどれですか。 A パ  
ンがなければパン屋に焼かせれば B パンがなければお肉にすれば C パ  
ンがなければケーキにすれば

ここでは「写真・図表・地図・資料」として、イル・ド・フランスの地図、  
イル・ド・フランス [説明文]、ヴェルサイユ宮殿全景 [写真]、ルイ 14 世の  
肖像画、ヴェルサイユ宮殿鏡の間 [写真]、プチ・トリアノン [写真]、マリー  
・アントワネットの肖像画、が提示される。

6.9. パリの旅

「本文」

さて、フランスのパーチャル・トリップの最後はパリ市内である。パリは交  
通網の中心にある近代都市であり、フランスの首都であるにとどまらず、ヨー  
ロッパ全体の文化や商業の中心であること、ノートルダム大聖堂、凱旋門、エ  
ッフェル塔、そしてコンコルド広場といったフランス革命を中心とした歴史の  
舞台であったことを学習して行きます。「本文」は以下の通りである。

「[パリ市内の旅] いよいよパリ市内を巡ることにします。パリは「花の都」

ともいわれ、人口 200 万人以上が暮らしています。パリを中心に交通が網の目のようにひろがっている近代都市圏です。パリはフランスの首都であることにとどまらず、ヨーロッパ全体の文化や商業の中心地です。歴史的建造物やみどころが集中する世界一の観光名所です。また、食とファッションの都としてもよく知られています。

パリの中心部はシテ島です。中心はマレ地区とよばれています。このシテ島にはノートルダム大聖堂があります。また、凱旋門、エッフェル塔、そしてコンコルド広場などとして、それぞれの時代にパリで起こった出来事が記念碑的に残されています。]

「調べよう・考えよう」

[パリ市内の旅] では、パリを代表する観光スポットに焦点を当て、それがどのような文化遺産であるのか、また、いづどんな変化を被ったのかをいくつかの遺産について以下の発問に対して答えを探すことを通じて学習して行きます。「★メトロについて正しいのはどれですか。 A 全線均一料金である

B 改札口はあるが集札口はない C 切符 1 枚で路線の乗り換えができる

★この凱旋門を建てたのはだれですか。いつごろのことですか。(凱旋門の着工を命じたのはナポレオンで 1806 年のことでした。しかし、完成したのは 1840 年。ナポレオンの死後 19 年経ってからのことでした。) ★正面に見える大きな通りは何という通りですか。(シャンゼリゼ大通りです。このあたりは 16 世紀までは野原と沼地でしたが、17 世紀には整備され「エリゼの野」(= シャンゼリゼ) とよばれるようになりました。) ★大通りの並木の樹は何ですか。(マロニエの樹です。) ★コンコルド広場の真ん中にあるのは何ですか。(コンコルド広場の真ん中にあるのはエジプトから送られたオベリスクです。)

★フランス革命のとき、このコンコルド広場にもともとあったルイ 15 世の騎馬像のかわりにおかれたものは何だったのでしょうか。(コンコルド広場におかれたのは斬首刑に使われたギロチンです。ルイ 16 世、マリー・アントワネットをはじめ 1343 名もの命がここで奪われました。) ★ルーブル美術館はもとも何だったのでしょうか。 A 要塞 B 監獄 C 劇場 ★シテ島に

あるパリで有名な寺院とは何ですか。(ノートルダム大聖堂です。ノートルダムとは聖母マリアのことです。) ★この寺院の歴史はどうなっているのですか。(4世紀、キリスト教が国教となり、古代ローマ人たちの祭壇のあった場所に、サンテティエンヌ寺院がたてられ、これがもとになりました。) ★いつごろ今のような寺院になったのですか(ノートルダム大聖堂としての改築工事は、ルイ7世の時代、1163年に始まり、完成を見たのは1330年のことでした。) ★それまでの教会建築とこの大聖堂はどんな点が異なっているのですか。(それまでの教会とちがって、窓が大きく、ステンドグラスを採用し、巨大な内部、空へのびる塔が中世の人々を驚かせました。) ★パリを象徴するエッフェル塔はいつごろどうやってつくられたのですか。(19世紀の万国博を契機につくられ、高さは320.75 m、工期は27ヶ月でした。)

ここでは「写真・図表・地図・資料」として、メトロの路線図、メトロの入口 [写真]、凱旋門 [写真]、シャンゼリゼ通り [写真]、コンコルド広場 [写真]、オペリスク [写真]、ギロチン [写真/説明文]、ルーブル美術館の内部(ミロのビーナス [写真]、ノートルダム寺院の外観 [写真]、マレ地区の歴史 [説明文]、ノートルダム寺院の歴史 [説明文]、ノートルダム寺院の内部(バラ窓) [写真]、エッフェル塔 [写真]、が提示される。

## 6. 10. 世界遺産から生活文化遺産まで

「本文」

[世界遺産から生活文化まで] では、これまでのバーチャル・トリップで学習してきたフランスの世界遺産から文化遺産までを年表(時系列的に復習)することと、もうひとつ、世界遺産から生活遺産までの遺産について一般的なまとめを行うこと、この2つがなされる。[世界遺産から生活文化まで] の本文は以下の通りである。

[[世界遺産から生活文化まで] これまでバーチャル・トリップでまわってきたフランスの世界遺産や生活文化遺産について時代別(時間的)にまとめてみましょう。原始時代から現代まで幅広い遺産が世界遺産に登録され、いま

でも生活遺産として保持されていることがわかります。

フランスの世界遺産や生活文化遺産はある時代につくられ、あるものはそのままに、またあるものはいくつかの時代による変化を付け加えて今日に残されています。フランスには、バーチャル・トリップでまわって来てきた以外の世界遺産がまだあります。

フランスに限らず、世界遺産には文化遺産、自然遺産そして複合遺産の3種類があります。世界遺産の中には人類の過ちを繰り返さぬよう後世に伝える趣旨の遺産も含まれています。ポーランドのアウシュヴィッツ・ビルケナウのナチス・ドイツの強制・絶滅収容所が同じ負の世界遺産のカテゴリーには入りません。

世界遺産とされるには、登録が必要で、世界遺産条約を締結した国がおこなっています。日本で登録待ちをしている遺産（暫定遺産）には次のような候補があります。

平泉の文化遺産、古都鎌倉の寺院・神社ほか、彦根城、富岡製糸場と絹産業遺産群－日本産業革命の原点－、小笠原諸島、長崎の教会群とキリスト教関連遺跡、飛鳥・藤原－古代日本の宮都と遺跡群、富士山があります

世界遺産には文化遺産、自然遺産そして複合遺産の3種類以外に危機遺産とよばれるものがあります。

世界遺産とはいえないけれども、日本では、国宝・重要文化財、伝統的建物保存地区、遺跡、近代化遺産、伝統芸能・方言、大衆文化といった私たちの生活を豊かなものにしてけると同時に、保護・保全に関する積極的な取り組みを求められているものがあります。

今回はフランスを見て回るバーチャル・トリップを企画しましたが、身近なところに目を向けることも大切なことです。

これらの世界遺産を含め以下の生活文化遺産までを次代に引き継いでいくために、わたしたちができることにはどんなことがあるのか考えてみましょう。」

以上の本文に対して「調べよう・考えよう」では以下の発問を通して学習が促される。

「調べよう・考えよう」

[世界遺産から生活文化まで]では以下の発問や課題が用意されている。「★フランスの世界遺産や生活文化遺産について時代別(時間的)に年表まとめてみましょう。★それぞれの世界遺産や生活文化遺産からはどんなことがわかりますか。(フランスの世界遺産や生活文化遺産はある時代につくられ、あるものはそのままに、またあるものはいくつかの時代による変化を付け加えて今日に残されている。)★これまでバーチャル・ツアーでまわってしてきたフランスの世界遺産や生活文化遺産について地域別(地理的)に地図にまとめてみましょう。(フランスの世界遺産や生活文化遺産はフランスの各地に分布している。)★地図にバーチャル・ツアーでまわってしてきたフランスの世界遺産以外の世界遺産を加えてみましょう。フランスの世界遺産はどんな基準で選定されたのでしょうか。(世界遺産には、文化遺産、自然遺産そして複合遺産の3種類があります。)★日本で、こうした負の世界遺産に指定されているものは何でしょうか。(日本では負の世界遺産としては、広島原爆ドームがこれにあたります。)★日本で世界遺産への登録を行っている省庁はどこでしょうか。(日本では、文化遺産は文化庁、自然遺産は環境省と林野庁がおこなっています。)★日本の暫定遺産にあなたが付け加えたい遺産をひとつあげその理由もすべてください。レポート1(1000字程度)★危機遺産とはどのようなものでしょうか。(そのままでは種々の理由で維持が難しく、保全・保護を必要としている遺産のことです。)★これらの世界遺産を含め以下の生活文化遺産までを次代に引き継いでいくために、わたしたちができることにはどんなことがあるだろうか。つぎの項目のうち2つを選んでレポート(各1000字程度)にまとめて提出しなさい。1世界遺産2国宝・重要文化財3伝統的建物保存地区4遺跡5近代化遺産6伝統芸能・方言7大衆文化(世界遺産保全の前提として、世界遺産とその周辺の人々を脅かす戦争や紛争をなくす。世界遺産保全の前提として、世界遺産とその周辺の人々を脅かす飢餓や貧困をなくす。世界遺産保全の前提として、世界遺産とその周辺の人々を脅かす環境破壊をなくす。世界遺産保全の前提として、世界遺産を保護し保全していく人材を育成す

る。世界遺産保全の前提として、世界遺産を保護し保全していく資金を確保する。世界遺産保全の前提として、各国の重要文化財、伝統的建物保存地区、遺跡、近代化遺産、伝統芸能・方言、大衆文化などの価値を学校教育で学ばせ、社会教育を通じて啓発をはかる。)」

ここでは「写真・図表・地図・資料」として、世界遺産の定義と種類／分布 [資料]、負の世界遺産（広島原爆ドーム） [写真／説明文]、暫定遺産（古都鎌倉の寺院・神社ほか） [写真／説明文]、国宝 [説明文]、重要文化財 [説明文]、伝統的建物保存群 [説明文]、遺跡 [説明文]、近代化遺産 [説明文]、伝統芸能 [説明文]、大衆文化 [説明文]、が提供される。

## 7. おわりに 成果と課題

### 7.0. 本研究の位置づけ

本論文は、過去4年間にわたる、科研費による「メディア・シンセシスをを用いた社会系教科教材開発の基礎的研究」の第二（最終）段階に位置づく。第一段階のパイロット的な教材開発とは異なり、本格的なメディア・シンセシス教材の開発がめざされ、以下の成果と課題に到達した。

### 7.1. 内容面の成果と課題

本研究の内容面の成果は以下の通りである。

1) 高等学校の地理歴史科または総合的な学習で使用可能な内容構成として、歴史にとどまらない、まさに地歴融合した地理歴史科の教材、また総合的な性格をもった総合的な学習の教材、すなわちシンセサイズされた社会系教科本来の単元が開発できた。パイロット的な研究成果である「ニュージーランド」は、中学校3分野及びその相互の関連に留意することで、正規の地理的分野にも位置付き、かつ、中学校社会科全体を見据えたカリキュラムに位置付く単元という性格のものであった。そこで、同様の教材開発が高等学校レベルでも可能であることを示すことが出来た。



2) 世界遺産から生活文化遺産まで、広く文化遺産学習の原点に立ち返りながら、高等学校地理歴史科という教科の特質をいかすことで、他国理解にも役立つグローバルな視点の導入の場とすることができた。地理的な面では、フランス各地の位置付けを、日本からのバーチャル・トリップとして日本と結び付けることで、グローバルな空間に位置付けて捉えさせることができるものとなった。歴史的な面では、一国史であるフランス史の内容を、その歴史を形成した複数の人々の視点から、また、フランスのそれぞれ独自の文化的背景をもつ地方とその歴史というローカルな視点のもとで捉えさせることで、いわゆるグローバルな時間に位置付けて捉えさせることができるもの（グローバル史学習の一モデル）となった。公民的な面では、フランスの政治・経済・社会の諸問題の一部をちょうど旅行者がそうするように最小限度学習できるものとした。

3) フランスに関わる個別的な知識の習得にとどまらず、今回は、世界遺産から生活文化遺産までの概念的知識の習得を明示して行なうことで、高等学校における世界遺産から生活文化遺産までの各種のカテゴリーに属する文化遺産学習のサンプル（モデル）を提示することができた。今回の場合、任意の世界の国または地域を扱う場合、中学校のように網羅的に学習するのではなく、旅行になぞらえてトピック的に学習するのも有効性があるのではないかとの教材編成の新たな原理を提唱し、それを具体的な教材内容編成原理として具体化して示すことが出来た。

本研究の内容面の課題は以下の通りである。

1) 高等学校地理歴史科あるいは総合的な学習の内容構成として、世界史や地理を既習の生徒にとって、あるいはこれを使用する教師にとっては、復習となる内容も多く、興味関心を持ってもらえそうであるが、これを素材に初めて学習する生徒には不向きである面は否定できない。今後は、本文などで学習事項の定着をはかったのち、学習させる等もう少し変化をつけたものを提示することが課題である。

2) 諸外国の歴史や地理の学習で取り扱われる問題をトリップ形式で学習していくため、学習内容の時間的な位置づけや、地理的内容の系統制がそのルート

に規定されてしまった。最後に、学習した事項を整理する活動は組んであるが、まだ、他にも方法があるのではないかとも思う。その点では、内容面で、エピソードやストーリー性のある内容などを取り入れ、生徒にもっと興味・関心を喚起する内容に改良する必要がある。

3) それぞれの世界遺産や生活文化遺産の学習など、絞り込んで次官を架けてやることも必要であろう。とくに、それらに関連した文献資料等に直接当たり、インターネットで関連資料を収集し活用するような学習も、もっと取り入れるべきであろう。

## 7.2. 方法面の成果と課題

本研究の方法面の成果は以下の通りである。

1) PC の特性をいかした電子教科書風の教材ソフトが開発できた。教科書風であるため、そのインターフェイスは、高校地理歴史科の授業を普段は紙媒体の教科書を用いて授業を進めている教師にとっても、また学習を行なっている生徒にとってもまったく違和感がないものとなった。とくに、今回は各ページの配色がフランスの国旗の色を基礎にしたものとしたのがユニークな点といえよう。また、ページを繰るように学習を進めていくことができることもさらに教科書風というこの感覚を強化している。

2) PC の特性をいかしたハイパーテキストである本教材は、画像や各種資料などがひとつに統合されたメディア・シンセシス教材でもある。標準的な PC の画面に収まってしまう全 10 ページ (10 画面) のインターフェイスはもしそれが紙媒体であればその面積をこえる情報をそこに盛り込むことは不可能である。ところが、電子教科書である本教材ソフトでは、各ページが基本的に 5 つの部分に分かれるだけでなく、分かれた部分のさらに文章や、写真などの映像、それぞれがまた、他の情報をのせたページとリンクしており、その情報のページを必要に応じて 5 つの部分の中に呼び寄せて開いたり、必要がなくなれば閉じたりすることができるように設計してある。教科書風の 1 ページの画面は、「調べよう・考えよう」では、発問が提示されており、それをもとに生徒

が「本文」や「写真・図表・地図・資料」などを手がかりに調べたり、考えたりすることを促し、予想(答え)を出した後に、そこをクリックすると、その答えが示される。つまり、1つのページ自体がツリー構造をもっており、異なる階層の上下や同一階層の行き来により多大な情報とリンクされているのである。「写真・図表・地図・資料」も小アイコンや見出し文字で示されているが、いずれも、クリック1つで見易い大きさに拡大表示され、教師・生徒が授業の途上で参照しやすく設計することができた。また、小アイコンや見出し文字で示すことで、ページに搭載できる写真・図表・地図・資料の数や大きさは紙媒体の教科書では考えられないほどのものが可能であることを示している。

3) 本教材の開発を行なった PC は Mac である。本研究の一連の研究の基礎も Mac であったが、Mac の OS が 9.2. から 10.X. に変わるとき本研究の基本的な教材開発ソフトである付属の簡易エディターがシンプル・テキストからテキスト・エディットに変わった。しかし、いずれもこれらを用いて作成した HTML は Windows のメモ帳で作成したものと同様のものであり、Windows でも読むことが可能であり、ソフトとして同等に使用できる。(ただし、ごく一部の画像は、形式的に読めないものがある。)教材ソフトの閲覧(使用)には、Mac では閲覧ソフトである Safari や FireFox, Windows では Internet Explorer や Fire Fox などバンドルされているか、インターネット上に無償で提供されているソフトがあればよい。こうした点でこの教材は OS を問わず使用可能な汎用性を有している。また、それぞれのページはさきに詳細を示したように、ごく簡単なスクリプトから構成されている。また、同等の教材ソフトを開発したい教師は提供された教材ソフトの任意のページまたはウィンドウのスクリプトを上記簡易エディターにドロー・アンド・ドロップしてみればそのスクリプトがわかるので、それをコピーしてデータの差し替えなどさえすれば独自の教材が作成可能である。すなわち、この教材ソフトは、簡易性と追試可能性を兼ね備えている。

本研究の方法面の課題は以下の通りである。

1) 成果の 1)~2) をさらにいっそう推し進めることが課題である。教材ソフト

トとしては、当面、それ自体としてクローズドなものとして設計することになるが、使用する教師や生徒にとっては、もっとオープンな感じをもたせる教材ソフトへと改善・改良していく必要がある。

2) さらに、教材ソフトとしてはクローズドなものであるにしても、教材ソフトをインターネット上に公開してオープンな教材として教師や生徒に広く使用してもらうことも考えられる。ただし、この場合、筆者が撮影した映像資料は問題が無いが、資料として引用した他の一部の画像や文献などの著作権の問題が発生する懸念がある。

3) 次の教材ソフトは、メディアのリンクや位置づけなど、この電子教科書とは少しちがうものを構想している。個々のパーツがもっと多様な構成をとる教材ソフトの開発である。そうなると、当然方法面でも内容の展開に即応した新たなメディア・オーケストレーション教材とでもよべるようなものにすることが課題である。

\*本研究は平成 18-21 年度日本学術振興会科学研究費基盤研究 (C)「メディア・シンセシスをを用いた社会系教科教材開発の基礎的研究」(課題番号 18530734)の成果である。

## 注

1) 報告者による先行研究は以下の通りである

- ・金子邦秀 ハイパーカードを用いた社会科教材開発の基礎的研究 (1)-『地理への挑戦』と『ベトナム戦争』- 『人文学』第 157 号 同志社大学人文学会 pp.1-22  
1995
- ・金子邦秀 ハイパーカードを用いた社会科教材開発の基礎的研究 (2)-『ベルサイユ条約』と『羊の角Ⅱ』- 『文化学年報』第 45 輯 同志社大学文化学会 pp.31-44  
1996
- ・金子邦秀 ハイパーカードを用いた社会科教材開発の基礎的研究 (3)-『19 世紀の歴史発見』と『アンデスの世界』- 『教育文化』第 5 号 同志社大学文学部教育学研究室 pp.20-38 1996
- ・金子邦秀 (研究代表者) 平成 6 年度-平成 8 年度基盤研究 C「ハイパーカードを用いた社会科教材開発の基礎的研究」(科学研究費補助金報告書) 1997
- ・金子邦秀 ハイパーメディアによる教材開発 (1)-高校日本史「室町時代の人々の

メディア・シンセシスをを用いた教材開発 (2)

- 一日コース 『教育文化』 7 同志社大学教育学研究室 pp.28-41 1998
- 金子邦秀 「歴史の流れを世界の歴史を背景に理解させる中学校のモデル」 東アジアの海をめぐる躍動—四〜五世紀の日本と東アジア— 『教育科学社会科教育』 No.476 明治図書 pp.94-99 1999
  - 金子邦秀 ハイパーメディアによる教材開発 (2) - 高校日本史「室町時代の人々の一月」コース 『教育文化』 9 同志社大学教育学研究室 pp.1-26 2000
  - 金子邦秀 (研究代表者) 平成 9 年度 - 平成 12 年度基盤研究 C(2) 「メディア・ミックスを用いた社会系教材開発の基礎的研究」 (科学研究費補助金報告書) 2000 年
  - 金子邦秀 ハイパーメディアによる高校日本史の教材開発 浅香勝輔教授退任記念刊行会編 『歴史と建築のあいだ』, 古今書院, pp.191-195 2001
  - 金子邦秀 ハイパーメディアによる教材開発 (3) - 高校日本史「室町時代の人々の一年」コース 『教育文化』 12 同志社大学教育学研究室 pp.1-26 2003
  - 金子邦秀 ハイパーメディアによる教材開発 (4) - 高校日本史「室町時代の人々の一生」コース 『教育文化』 14 同志社大学教育学研究室 pp.19-42 2005
  - 金子邦秀 (研究代表者) 平成 13 年度 - 平成 16 年度年度基盤研究 C(2) 「メディア・コンプレックスを用いた社会系教材開発の基礎的研究」 (科学研究費補助金報告書) 2005
  - 金子邦秀 メディア・シンセシスをを用いた教材開発 (1) - 中学校用教材ソフト 『ニュージーランド』 - 『評論・社会科学』 84 同志社大学社会学会 pp.159-188 2008
  - 金子邦秀 グローバルな視点を取り入れた中学校用教材ソフト 『ニュージーランド』 『グローバル教育』 10 日本グローバル教育学会 pp.16-28 2008
  - 金子邦秀 フランス・バーチャル・トリップ X 日間 - 世界遺産から生活文化までを活用した社会系教材 (ソフト) 開発 - 『世界遺産から身近な生活文化遺産までを活用した社会系教材開発 (平成 20 年度文教協会研究助成金成果報告書)』 同志社大学社会学部 pp.1-43 2009

\*\*この教材ソフト作成に当たって参考にした文献は以下の通りである。

- 池田賢市 フランス 嶺井明子『世界のシチズンシップ教育—グローバル時代の国民  
／市民形成—』東信堂 2007
- 稲葉宏爾『ガイドブックにない フランスぶらぶら案内』阪急コミュニケーションズ  
2003
- 井山登志夫『フランスの小さなお城に住む』中央公論事業出版 2008
- オフィス・ギア『8つのテーマで行くパリ発, 日帰り小旅行』ダイヤモンド・ビッグ  
社 2009
- 鹿島茂文／鹿島直写真『パリのパサージュ—過ぎ去った夢の痕跡—』平凡社 2008
- 菊池丘・高橋明也 (青山進写真)『フランス発見の旅—魅惑の地方を訪ねる 東編  
—』東京書籍 2000

- 木俣元一『パリー中世の美と会おう旅ー』新潮社 2008
- 黒澤明夫『ワールドガイド フランス』JTB パブリッシング 2007
- 小泉澄夫『フランス(1) パリとその周辺(フランス西部)』毎日コミュニケーションズ 2007
- 小泉澄夫『フランス(2) 魅惑の地方編(フランス東部)』毎日コミュニケーションズ 2007
- 佐藤清『フランスー経済・社会・文化の位相ー』中央大学出版部 2005
- サブテク『フランスの何が優秀か』サイマル出版 1980
- 柴田三千雄『フランス史10講』岩波書店 2006
- ジョセフ・ギース／フランシス・ギース(青島淑子訳) 講談社 2006
- J=P. シュヴェンヌマン／樋口陽一／三浦信孝『〈共和国〉はグローバル化を超えられるか』平凡社 2009
- 杉一浩『フランス 四季の色と美しい村』木楽舎 2006
- 高草茂『プロヴァンス古城物語ー南仏の秘められた歴史ー』里文出版 2006
- 遅塚忠躬『フランス革命』岩波書店 1997
- 原聖『〈民族起源〉の精神史 プルターニュとフランス近代』岩波書店 2003
- P. M. A. トライアングル『新個人旅行フランス'07-'08』昭文社 2007
- 樋口陽一『ふらんすー「知」の日常をあるくー』平凡社 2008
- 飛幡祐規『それでも住みたいフランス』新潮社 2007
- 『フランスの旅 No.5』(El MOOK 1448) 榎出版社 2008
- フランソワ・エラン(林昌宏訳)『移民の時代ーフランス人口学者の視点ー』明石書店 2008
- ブルーガイド海外編集部編『わがまま歩き1パリ』実業之日本社 2007
- ブルーガイド海外編集部編『わがまま歩き25 フランス』実業之日本社 2007
- 中島智章『図説 ヴェルサイユ宮殿ー太陽王ルイー四世とブルボン王朝の建築遺産ー』河出書房新社 2008
- 西出真一郎『星明かりの村ーフランス・ロマネスク聖堂紀行ー』作品社 2008
- 沼口祐子『気分はパリ暮らし 限りなくタダ、とっておきのパリを楽しむ!』光人社 2005
- 飛幡祐規『それでも住みたいフランス』新潮社 2007
- 福本秀子『フランス中世歴史散歩』白水社 2010
- ヘンリー・アダムズ著・野島秀勝訳『モン・サン・ミシェルとシャルトル』法政大学出版局 2004
- 堀越孝一『新書 ヨーロッパ史 中世篇』講談社 2003
- 増田正『快適なフランス生活』創開出版社 2003
- ミシェル・バンソン／モニク・バンソン=シャルロ(野田四郎監訳・阿部克彦／檉尾岳訳)『パリの万華鏡ー多彩な街の履歴書ー』原書房 2006

- 山田和子『ショトル トラベル フランス世界遺産の旅』小学館 2002  
吉村和敏『「フランスの美しい村」全踏破の旅』講談社 2009  
渡辺和行『エトランジェのフランス史 国民・移民・外国人』山川出版社 2007  
渡辺節夫『フランスの中世社会 王と貴族たちの軌跡』吉川弘文館 2006

\* 世界遺産～身近な遺産文献リスト

- 秋道智彌『水と世界遺産－景観・環境・暮らしをめぐる－』小学館 2007  
荻野洋一『おもしろくてためになる世界遺産の雑学事典』日本実業出版社 2001  
大西剛『イヤイヤ訪ねた世界遺産だったけどーアジアで見つけた夢の足跡ー』新評論  
2001  
金関恕『遺跡は語る－真実の縄文, 弥生, 古墳, 飛鳥ー』角川書店 2001  
小林克己『世界遺産一度は行きたい100選 ヨーロッパ』JTBパブリッシング 2009  
清水勳『日本近代漫画の誕生』山川出版社 2001  
清水慶一『NHK 知るを楽しむ この人この世界 につぼん近代化遺産 明治・大正  
・昭和 知られざる物語』日本放送出版協会 2007  
奈良大学文学部世界遺産を考える会編『世界遺産学を学ぶ人のために』世界思想社  
2000  
平川陽一『世界遺産・封印されたミステリー－今なお解けない謎に迫る－』PHP 研究  
所 2002  
世界遺産を旅する会編著『世界遺産厳選55』小学館 2000  
世界遺産を旅する会編著『世界遺産太鼓判55』小学館 2000  
古田陽久『世界遺産学のすすめ－世界遺産が地域を拓く－』シンクタンクせとうち総  
合研究機構 2005  
カルチャーランド編『みんなが知りたい! 「世界遺産」がわかる本』メイツ出版 2006  
古田陽久『世界遺産概論 上巻』シンクタンクせとうち総合研究機構 2007  
古田陽久『世界遺産概論 下巻』シンクタンクせとうち総合研究機構 2007  
古田陽久・古田真実『世界遺産ガイドー西欧編ー』シンクタンクせとうち総合研究機  
構 2000  
星野紘『世界遺産時代の村の踊り－無形の文化財を伝え遺すー』雄山閣 2007  
堀淳一『消えた街道・鉄道を歩く地図の旅』講談社 2003  
山村高淑・張天新・藤木庸介編『世界遺産と地域振興－中国雲南省・麗江にくらす  
ー』世界思想社 2007  
水島司『グローバル・ヒストリーの挑戦』山川出版社 2008  
なるほど知図帳日本編集部『歴史の足跡をたどる 日本遺構の旅』昭文社 2007  
宮崎正勝『移動と空間の世界史－グローバルに時代を読むー』ニッポン放送出版協会  
2008  
森まゆみ『東京遺産』岩波書店 2003

メディア・シンセシスをを用いた教材開発（2）

吉村和真『マンガの教科書－マンガの歴史がわかる 60 話－』臨川書店 2008

山折哲雄『日本の息吹 しなやかに凜として』日本放送出版協会 2008

若木久造・福田恵一・瀬戸口信一『知恵とくらしが見える世界地理』わかたけ出版  
2008



## Development of Teaching Materials

### Using Media-Synthesis (2)

—Software “France”-10 Days Virtual Trip in PC—

Kunihide Kaneko

The aim of this serial research is to develop a software to teach about human heritages from world heritages to national/local/personal heritages. This teaching material also aims not only to show how secondary world history become an integrated type of world study but also to make a new teaching materials adopting a style of virtual trip in the country to be studied. This software has an interface which looks like a page of paper based textbook as familiar as possible to teachers and students who use this software will have an intimate feeling with this. And the color of each page looks like a French National Flag (tricolore).

Besides this software, I also develop a model teaching plan which will save the time of teacher who want to use this software in the high-school world history class.

I try to make a kind of hybrid type software that is to be used on both Mac OS and Win OS without any software except browsing software which are afforded as a banded and/or easily be able to get as a download software like Safari, Internet Explorer, and FireFox.

Through the software “France”-10 Days Virtual Trip in PC, high-school students, who had already studied general history about France, are requested to use basic knowledge again on the trip of the regions in France. And using main text and another resources including many pictures, maps, time lines and another pictorial materials as hints, students guess the collect answer and examine the hypotheses are true or false only push the answers seems to be right. If it will be true and/or false, right answer and extra explanation will be given to students. So, the only requested behavior for both teachers and students is to push the marked text by the mouse. The underscored questions, icon-like pictures, and resources are linked with answers page, large scale pictures and resources which will open as wide as a frame. It will help any person who want to read resources and want to examine the its data and information in detail.